

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援事業所 エール幕張海浜		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 5日	～	2025年 11月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 11月 5日	～	2025年 11月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 13日		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心感をもち、継続的に通える安定した支援体制がある。	5名ずつの小集団で活動し、一人ひとりの特性に応じた支援計画の立案と実践を行う。関係機関との情報共有を行い、園や家庭と一貫したかかわりをもてるようにする。	安心感を基盤にしながら「できた」と感じる成功体験や自己決定の機会を取り入れていく。保護者に対しては相談しやすい環境づくりや直接話ができる機会を充実させ、信頼関係を深めていく。
2	心理士を配置することで、子どもの発達段階や特性に即した専門的な視点から支援を行える。	子ども・保護者・職員をつなぐ専門職として、事業所全体の支援力を高めていく。	質の高い療育支援を行うため、多職種の専門性について学ぶ。(理念を共有する姉妹事業所に在籍の作業療法士・機能訓練士との連携)
3	子ども園内に併設されていることで、日常の保育と支援を切れ目なくつなげられる。一貫性のある実生活に即した支援が行える。	クラスと支援のねらいを明確に共有し、一貫したかかわりを強化していく。園での具体的な支援方法を提案し、集団生活の中で力を発揮しやすい環境を作る。	職員間の共通理解を深める日々の振り返りや、専門性を高める研修を行い、園と事業所が共に子どもの育ちを支える体制の充実を目指していく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	エール幕張からの定期的な情報発信や保護者同士の交流を検討する。	平日のイベント開催は、参加できる方が限られてしまう。	定期的な通信の発行をする。イベントや保護者交流について、アンケート等でニーズを確認していく。
2	事故発生時や緊急時の対応について、改めて周知していく。	契約時に説明をしているが、年度はじめ等の定期的な周知が必要。	保護者へ向けて訓練などの活動報告を行う。各マニュアルを、保護者が手に取りやすい場所へ掲示していく。
3			